

今、なぜERDBが求められるのか —大学における学びの観点から—

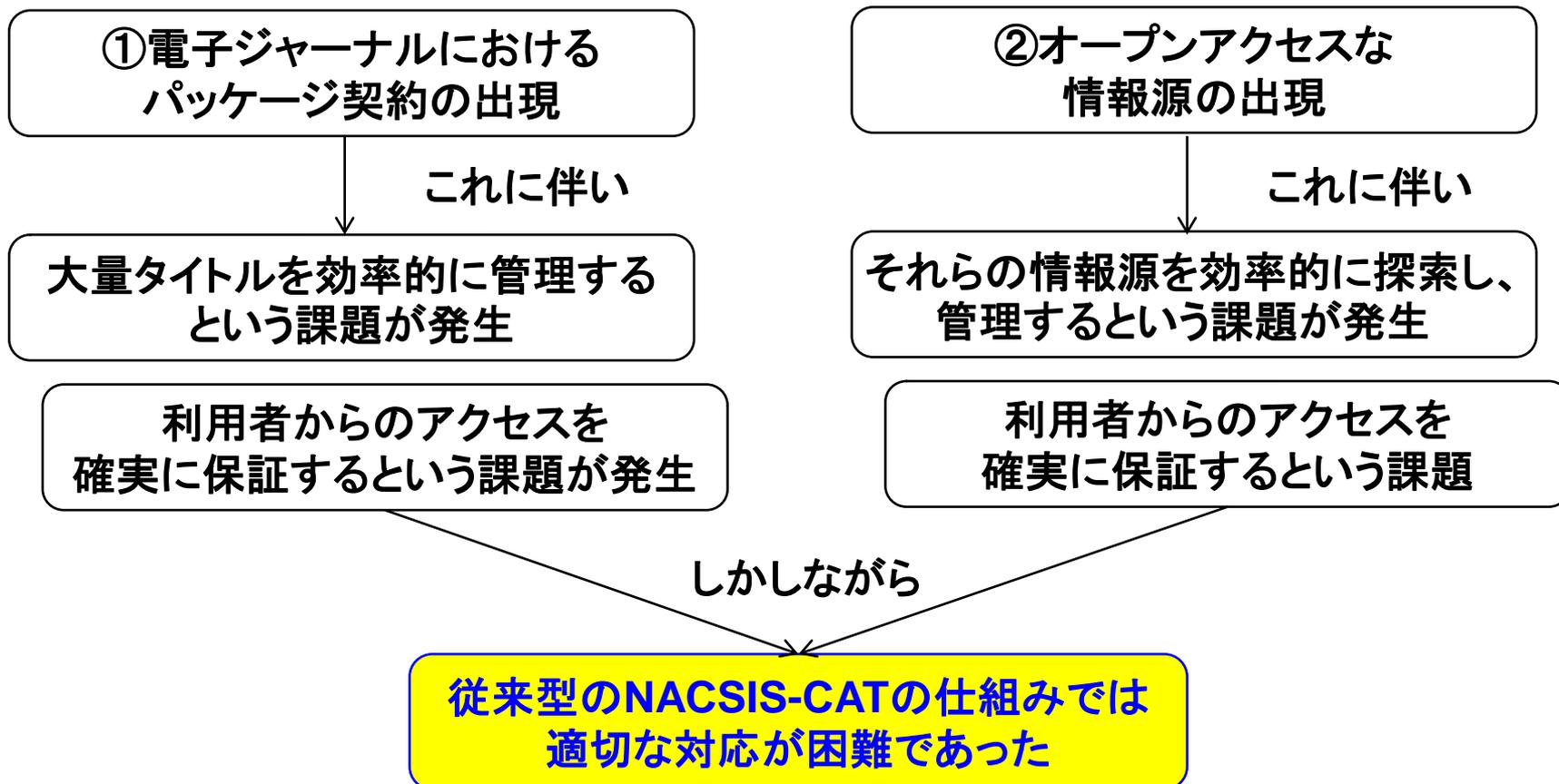
東北大学附属図書館
米澤 誠

本レクチャーの目次



1. 電子リソース管理問題の背景
2. ERDBとは
3. 大学における「学びの転換」
4. 学びにおける情報源

1. 電子リソース管理問題の背景



1. 電子リソース管理問題の背景



(電子情報資源への対応)

近年、電子ジャーナルや電子ブックの利用が急速に浸透したが、それらの目録所在情報を簡便に維持管理する環境が整っていないがゆえにNACSIS-CATに書誌、所蔵レコードが蓄積されず、結果として印刷体の雑誌と電子ジャーナルの一元的な検索機能の提供や、一般的なライセンス契約で認められているILL利用が進んでいない。

『次世代目録所在情報サービスの在り方について(最終報告)』、
国立情報学研究所、平成21年3月

1. 電子リソース管理問題の背景



(情報の「粒度」の変化)

電子的情報資源の増大とともに重要であるのは、学術情報の流通が結果的に、旧来の「図書」「雑誌」という容れものの単位から、一論文または一章といった構成単位を含むものへと変化している。いわゆる情報の「粒度 (granularity)」問題であるが、これにより構成単位に対応するメタデータの作成 (記録) とそれらの関連 (リンク) 形式がより一層重要となるだろう。

『次世代目録所在情報サービスの在り方について(最終報告)』

1. 電子リソース管理問題の背景

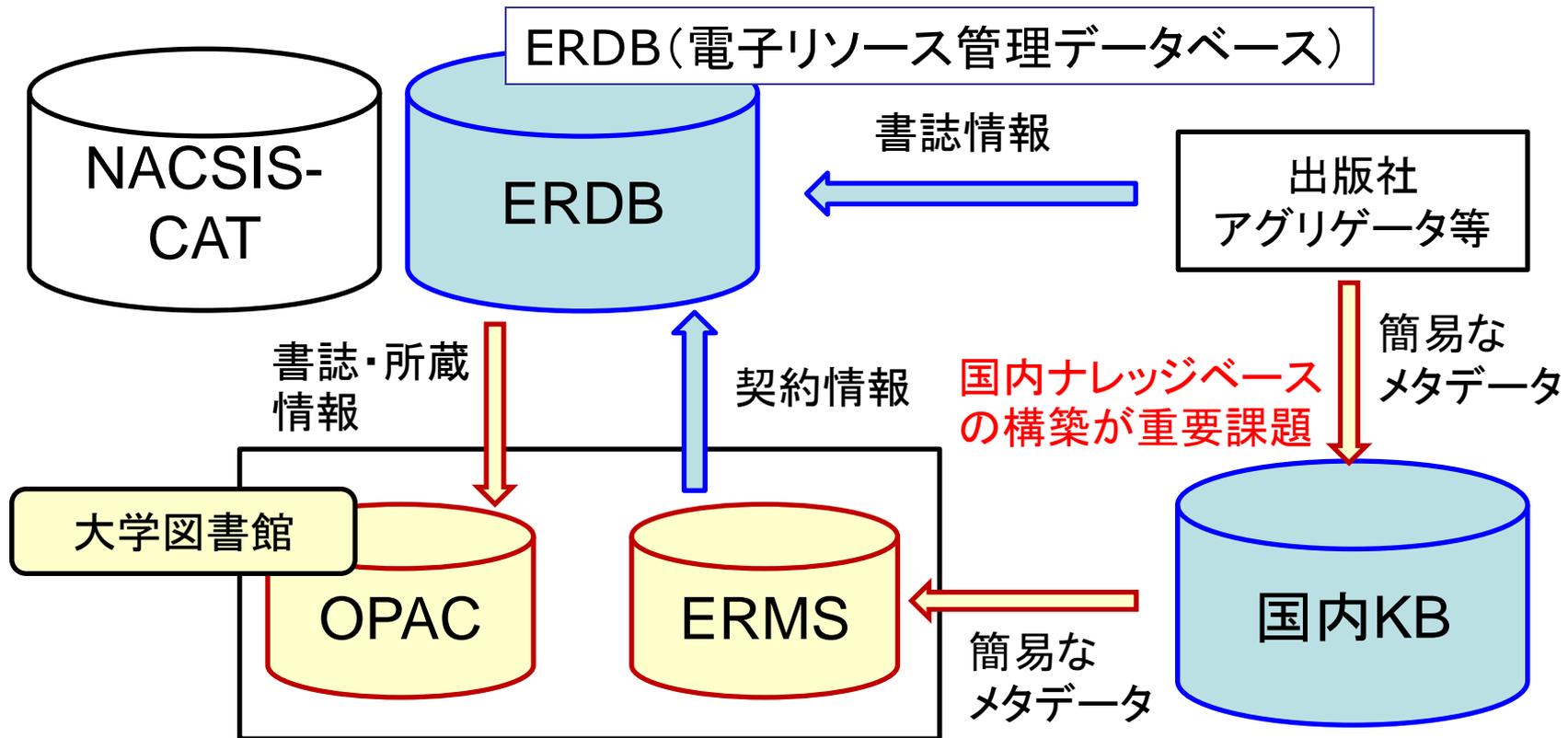


(利用者行動スタイルの変化)

二次情報データベースや電子ジャーナル等、大学図書館のネットワーク上でのサービスが定着するにしたがい、多くの図書館利用者の利用スタイルは「図書館で探す」から「ブラウザ上ですべてを手に入れる」へと大きく変化している。また、ブラウザ上での、情報の「発見→所在確認→入手→利用(記録)」をシームレスに行えることが当たり前のこととして期待されるようになりつつある。

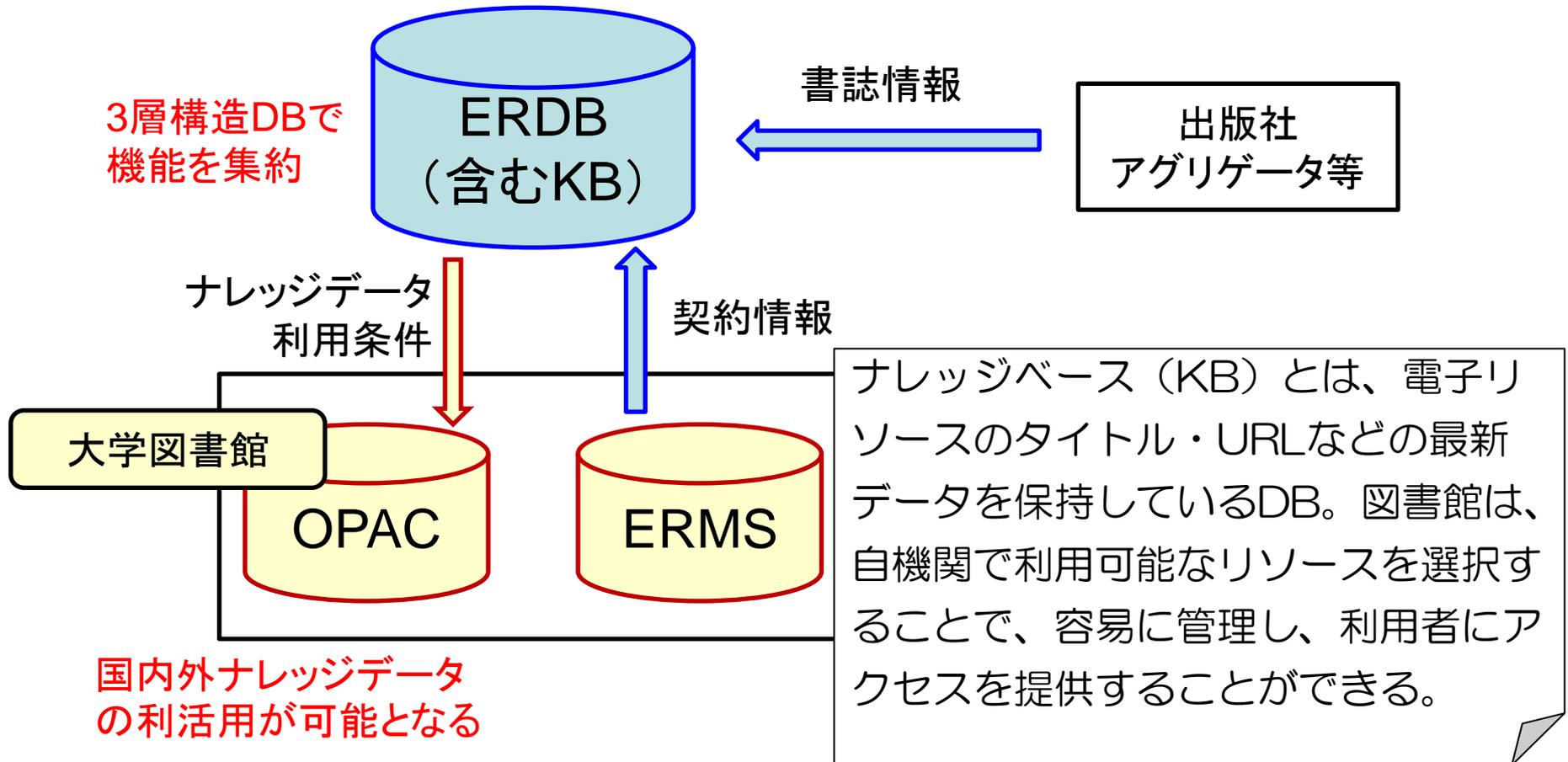
『次世代目録所在情報サービスの在り方について(最終報告)』

2. ERDBとは(1)当初構想



「『電子情報資源管理システム(ERMS)実証実験. 平成20年度報告書』、国立情報学研究所、平成21年3月」から作成

2. ERDBとは(2)今回の構想



3. 大学における「学びの転換」



(学士課程教育の質的転換)

生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力を持った人材は、学生からみて受動的な教育の場では育成することができない。従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し解を見いだしていく **能動的学修 (アクティブ・ラーニング)** への転換が必要である。(p.9)

『新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて ～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～(答申)』、中央教育審議会、平成24年8月28日

3. 大学における「学びの転換」



(学士課程教育の質的転換) 続

すなわち個々の学生の認知的、論理的、社会的能力を引き出し、それを鍛えるディスカッションやディベートといった双方向の講義、演習、実験、実習や実技等を中心とした授業への転換によって、学生の主体的な学修を促す質の高い学士課程教育を進めることが求められる。学生は**主体的な学修の体験を重ねてこそ、生涯学び続ける力を修得できる**のである。

(p.9)



3. 大学における「学びの転換」



しかしこれからは、基礎教育に加え、方法に係わる知識、いままでは学校で教えようとさえしなかったものが必要になる。特に知識社会においては、**継続学習の方法を身につけておかなければならない。内容そのものよりも継続学習の能力や意欲のほうが大切である。**ポスト資本主義社会では、継続学習が欠かせない。学習の習慣が不可欠である。



(1993年)

P.F.ドラッカー『ポスト資本主義社会』、ダイヤモンド社、2007

3. 大学における「学びの転換」



従来の知識とは、多くの情報を記憶することだと考えられていたため、学校教育でも情報を記憶させることに主眼が置かれていた。ところがウェブと検索エンジンを利用することで、記憶していなくとも好きなときに情報を引き出すことができるようになった。

知識という概念を構成していた情報の記憶と活用が切り離され、**活用方法を理解することこそ知識の本質**ではないかと考えられるようになるのは自然のなりゆきだと言えるでしょう。

大向一輝、池谷瑠絵『ウェブらしさを考える本：つながり社会のゆくえ』、丸善出版、2012

4. 学びにおける情報源

東北大学の平成25年度転換・少人数科目基礎ゼミ「図書館を活用したスタディスキル」での、ある学生のレポートの情報源例。

レポートテーマ「アニマルウェルフェアに対する考察」

(すべてウェブ上の情報源)

- ・農林水産省HP
- ・家畜改良センター
- ・アニマルウェルフェアの考え方に対応した家畜の使用管理方針
- ・アニマルライツセンター
- ・ハイ食材室
- ・環境省

ウェブ上の情報源に流れる傾向

だからこそ

信頼性のある情報源に導く必要性

4. 学びにおける情報源

本の情報はひとつのテーマで圧縮されています。推敲されている分、情報の密度も高い。だから本を読むとネットよりもはるかに自分の考えを発展させることができます。

津田大介『情報の呼吸法』、朝日出版社、2012

ネット(SNS)の情報もある意味では有用

しかしながら

情報密度が高い書籍情報への
確実な誘導路が重要

4. 学びにおける情報源

メタデータを電子化 ← 冊子体 電子媒体 → メタデータを電子化

